

第2回（仮称）札幌市森林基本方針策定に関する有識者会議（逢坂委員）議事録

日時：令和4年6月7日（火）14：00～16：00

場所：北海道石狩振興局林務課

委員：逢坂委員（石狩振興局森林室蔵中普及課長 同席）

札幌市：上田自然緑地係長、久保職員

=第4章=

【上田係長】（第4章説明）

【蔵中課長】市有林を整備するにあたって、市有林の森林経営計画の策定はどうなっているのか？

【久保職員】森林経営計画は悩みどころ。市有林の多くが60～70年の高齢級なので補助金が使えない。

【蔵中課長】今、間伐補助金がもらえるところはそんなに多くはないということか。

【逢坂委員】私有林だけでは、なかなか森林経営計画の作成は進まないのではないか。

【蔵中課長】私有林だけでは面積的にたてられないところを市有林と一体にすることで経営計画が作れる箇所はあるか？そういうところを救う意味で立てるといったことはないか？

【久保職員】市町村森林整備計画で効率的な経営が出来る区域を新たに指定したところは補助金の対象林齢が高くなるというようになったと思う。可能性があればそういうところに指定して経営計画を立ててということもあり得る。

【蔵中課長】更新伐は？一般的なのは樹高の2倍程度まで帯状に切って、切ったのと同じくらいの幅で残してを繰り返す。更新伐後には植えるということで、これは補助金が出る。逆に言うと標準伐期齢以上でないといけない。これは主伐なので。だから林齢が高い方が出来る。要間伐森林が進み過ぎると下手に間伐をやったら逆におかしくなる、もう手遅れの状態もある。それだったら切って植えなおした方が早いということもいくらでもある。そういうところは逆に下手に間伐するよりは更新伐をすべき。標準伐期齢を超えている、あるいはゾーニングの関係で伐採可能林齢がさらにプラスになっている可能性もあるが。要は主伐が出来る林齢に達していれば更新伐は出来る。

【逢坂委員】針交混交林化の目的は将来的に広葉樹を使えるようにするのではない？

【上田係長】現在間伐遅れのところは公益的機能が発揮出来ていないという前提のもと、間伐を進めて針交混交林化になっていけば発揮出来るという意図。

【逢坂委員】間伐して自然に生えてくるのを待つ感じ？

【上田係長】イメージとしてはそのとおり。

【蔵中課長】一回だけ強度の間伐して広葉樹が生えてくるだろうという期待。

【逢坂委員】ウクライナ情勢だけが要因ではないが、広葉樹の輸入量が減少し「広葉樹を確保する方法は？」という話も出て来ているので、どうにか出来ないかという思いはある。また、間伐しても石狩管内は製材工場が少ないためか伐り捨てになってしまっているようであればもったいない状態。

【蔵中課長】例えば市の公共施設にチップボイラーを導入すれば、切り捨てられていたのを燃料用に出来る。積極的に市で使えないのか。公共施設の建て替え時期にチップボイラーを導入してもらえると良いのかなど。

【逢坂委員】バイオマス推進の面でもチップボイラーとかを使ってもらえればと。

【上田係長】森林だけでなく公園や街路樹からも色々出てくるので、ここで集約してやるとある程度は公共事業だけでも集まるイメージはある。

【蔵中課長】最近だと河畔林から出てくる木からでもバイオマスエネルギーにしているような話もあちこちから聞いている。札幌市も沢山河畔林がありそうなので、チップボイラーを公共施設にどんどん入れていけば良いのかなという気がしている。

【逢坂委員】市の森林整備補助事業は間伐のみ対象か？間伐と経営計画策定のための所有者集約も対象か？

【上田係長】現地調査も対象。

【久保職員】間伐と作業道整備と機械レンタルも対象。

【逢坂委員】国の森林整備地域活動支援交付金は、経営計画を作るための調査等が対象だが、それは市や組合でも使っているのか？

【久保職員】十数年前に何ヶ所か使っていた。昨年も森林組合から話はあったが、条件的に経営計画策定の目途がつかず、交付金利用はあきらめた。

【逢坂委員】間伐はあるが主伐に関してはあまりない。

【蔵中課長】主伐の補助は更新伐くらい。

【逢坂委員】植える方は上乘せ補助（「豊かな森づくり推進事業」）がある。主伐自体もお金がかかって木材利用が進まないのであれば、支援して木材利用にもっていくことも必要では。

【逢坂委員】「なるべく搬出します」と言っても買ってくれるところがなければ進まない。工場は遠くから丸太を買うと運搬費用がかかるので、その分丸太を安く買うとなってしまうのは、主伐や皆伐をやっても森林所有者のメリットが少ないのかなど。さっぽろ連携中枢都市圏域などで協力するとしても、伐ったら使ってもらう、高く買ってもらうようになれば森林所有者に利益が還元されてちゃんと植えてくれる。そのような循環を起こさなければいけないが、石狩管内は工場が少なく、他地域より不利なところがあるので、その辺

りを支援出来るような制度が作ればいいのかと思う。

【蔵中課長】以前留萌にいたが、留萌管内では柱や板を作る工場が一つしかない。そこで移輸出をしている。移出は、秋田など。輸出は中国、韓国。管内から集めるので年に数回しか持っていかないが、こっちでも同じことは出来なくはないと思う。一番のポイントは大きい港があるかどうか。ここは石狩湾まで持って行けば良い。留萌では何年もかけて検討して、実際に年に数回道外へ持って行っている。

【逢坂委員】今回のいわゆるウッドショック、物価の高上り対策として、原木を遠くから買わなければならない工場に対して運搬費補助等を行う事業（「国産材転換支援緊急対策事業」）が国から示された。道内の工場では原木が足りていない状態。東北の合板工場のような力のあるところでも高値で買っている。道内の工場の中には、更に運賃補助されるとどんどん道外に持って行かれてしまうことを心配し、移出されないようにどうにか出来ないものかという声もある。石狩管内で原木が出せる状況にあれば、多少距離があっても買ってもらえるチャンスかなとも。

「利用されるので伐ります」という風にしないと森林も更新されないのではないか。

【上田係長】元々の発想自体が「公益的機能を発揮出来ないところを発揮させましょう」という視点の中、本当に適しているところだけ人工林施業を…というところで、文言ではゼロカーボンの観点から出来る限り間伐材は搬出するという程度しか書いていない。

もう少し利用のための伐り出しのようなイメージを持った方が良いのか。

【逢坂委員】そうなのかなと。集成材等の輸入品が入ってこないで、カラマツ集成材やトドマツ羽柄材等の道産木材が注目されるようになった。空知・後志管内等の工場でも使ってもらえるような協力体制、仕組があるとよい。

【上田係長】市は譲与税を活用して搬出する姿勢は可能。

【逢坂委員】市では素材販売・丸太販売・立木販売はしているのか？

【上田係長】立木販売はしていない。まず間伐の発注をして材を積み上げて、それに対して売り払い業務をまた出して、業者がまた何処かに売るという形。その方法だと、間伐時に材を出すという意識が不足するかもしれない。

＝第5章＝

【上田係長】（第5章 説明）

【逢坂委員】担い手に関して、力を入れようとしているのは素材生産事業者のイメージと資料から汲み取った。素材生産は伐採も機械で、オペレーターは比較的女性でも入りやすい。植える人・苗木を育てる人も足りない。工場も人手が不足している。そういった方にも目を向けているような記載が必要では。間伐が主体となっているので、植えるという方が伴っていないのでは。

【上田係長】市は主伐や造林がそう多くないと思っている部分もあり、こういう記載になっていた。

【逢坂委員】札幌市森林組合では今までメインが市有林施業だと思う。市以外の所有者の山で施業を行う際には、これをやるとこれだけ費用が掛かるとか、主伐すればこれだけの収入があるが、造林費用がこれくらいかかるだといった施業提案書を森林組合が所有者のところを持って行き合意をもらって行うことになると思うが。

【上田係長】経営管理制度は市でやって、経営計画は森林組合に頑張ってもらいたい。

【逢坂委員】担い手確保はさっぽろ連携中枢都市圏で連携した形で、市だけでなく周りを巻き込まないとなかなかうまくいかないのかなど。

【蔵中課長】譲与税があちこちの市町村にあり業務量的には増えそうな感じだが、やる人が札幌圏にこれだけいないのが不思議で仕方ない。普通なら他から参入してきても良さそうな感じがするが、そこが良く分からない。

【逢坂委員】人を増やすのは難しいので、スマート林業、工場での機械導入を進めることも考えられるが、補助金を使おうとすると生産効率を何パーセント上げなければいけないなどといったことが負担になっているとも考える。

【逢坂委員】

森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業は、ボランティアだけど経営を自立させるための支援という風になってきて、繰り返し長く使えないので、長く続けているボランティア団体へのフォローとして、環境税が使えるのではないかな。

【逢坂委員】CSR活動について、企業からは、社員が直接実行して頑張っている姿が見えやすいので、植樹したいという話が多く、間伐はどうしても業者に発注せざるを得ないので、お金を出しているだけとのイメージをもっている。企業のCSR活動で整備や植樹祭を行っても、メディアでなかなか取り上げてもらえず、業界紙でも取り扱いが小さいため、市にはメディア露出面で協力してもらえると、間伐事業でも理解を得られやすいのでは。

【逢坂委員】担い手に関しては（他の市町村もやっているが）移住・定住の取組をやっているところは職業に関しても紹介出来るようにしているので、そういったことを方針に組み込んでどうか。

担い手対策としては死亡事故を撲滅させたい。林業は危険な仕事のイメージがつきまとうので、事故防止・安全対策のような労働災害防止の取組も入れられたら。

北森カレッジに関しては、管内の高校の反応が鈍いと感じており、市でも就業・進学説明会の時に声を掛けてもらう等協力頂きたい。

【上田係長】（第6章 説明）

【逢坂委員】「現状」説明のところで、「木材需給見通し」に基づくデータになっているが、「実績」が出ているので、直したほうがよい。「製材用」となっているが、合板も入っているので「等」を入れたほうが良い。また、二つ目の「製材、集成材、合板の順になっている」とあるが、木材需給実績はどういった用途の原料として丸太が使われているかを示している資料なので、製品の生産量とは異なる。

「道産トドマツと競合する」となっているが、もともと競合していたとは言い難く、輸入品が入ってこなくなるとドマツの需要が高まった面もあるので、この文言をとったほうが良い。

「HOKKAIDO WOOD の認知度が低い」というのは、どの程度の認知度なのか根拠がないので、「さらに周知していく必要がある」といったような書き方が妥当ではないかと。

「市内で生産された木材が札幌圏域で利用されていない状況」とあるが、これについても根拠がなく道でも把握していないので、書き方に注意が必要と思う。

HOKKAIDO WOOD の推進に関しては、“HOKKAIDO WOOD BUILDING”という登録を始めているので（市の関連施設でも良いので）公共建築の機会があればぜひ登録をして頂き、少しでも道産材利用のアピールが出来れば。

【上田係長】市の中でも「製材工場がなく…」という話が出るが、かと言って市の方で動けることがあるだろうか、ここまでの規模になると道にお願いするところかなと思う。

【逢坂委員】市のホームページに掲載されている地域材利用方針で建築物を紹介したりしているように、観光パンフレットに一般の人が利用できる“地域木材を使った建物で SDGs に貢献していますよ”、木を使って“温もりのある建物にしています”みたいなことを掲載できないのかなど。

【逢坂委員】市産材は道産材との兼ね合いで埋もれやすい？

【上田係長】少量なので埋もれる。やるとしたら森林整備から製材加工まで一体の発注にすると、例えば大企業であれば全部関連企業があるので市産材を最後まで追うことができそう。

【逢坂委員】学校や子供関係で使うもので、教科書の副本と合わせてキットで啓発していくのは良いと思う。道産材と市産材という二方向にはなるが。

【上田係長】木工用キットは白旗山で取った材で加工して、それを配って図工で作り、QRコードのシールを貼って家に持って帰り、家族と一緒に見てもらえればそこに啓発動画が流れる、という流れだったら良いかなど。そういうのも考えたりしている。

【逢坂委員】子供から親御さんにどう伝えるかというパターンがなかなか難しい。

【上田係長】子供から親に言うのが、大人が一番響く。小学校の授業の時間に入れるのは今は難しいので、図工の授業に潜り込ませるような形が良いかと。

【逢坂委員】木材利用になれば、市だけというよりは周りの工場も巻き込まないといけない。市独自というよりは先ほどの圏域の協力が必要では。

【上田係長】川中から川下の話は、市はなかなか入りづらい。とにかく木材を沢山使う・啓発をするということを中心に進めるべきとは思っている。

=第8章=

【上田係長】(第8章 説明)

【逢坂委員】白旗山は機能が沢山あるが、エリアで分かれているのか？

【上田係長】現段階では“ふれあいの森”に部分的に位置付けをして、そこに“ふれあいセンター”があり市民の方々がレクリエーションを楽しむ場というようになっている。

【逢坂委員】1つのエリアが色んな機能を持っていると、森林整備をやっている時の安全対策が大変なのかなと思う。整理してゾーン分けなど、区分して計画を立てていく形にはならないか。

【上田係長】そういった方法も一つかと思う。もしくは路網を活用し通行止めをして「こっちに行きたい人はこっちに回ってね」というようにしていくのも現実的かなとは思ったりする。ゾーンを分けても、逆に穴場だと思われてどんどん入っていく可能性がある。入口での啓発等で認識して頂くしかない。

【逢坂委員】森林整備なり木材利用の普及啓発に拠点を置くとあるが、トレランやマウンテンバイク等はどうしてもレジャーに寄って行くので、公園的機能になってしまうのでは。

【上田係長】マウンテンバイクは確かにそういった要素がある。トレランに関しては自然歩道でのトラブルや大会の開催を考えると、ふれあいの森でやってくれないかなという気持ちがある。

【逢坂委員】教育展示林みたいなものを作って市民に見てもらう。間伐の場所は毎年変わって経過が分からなくなるので、場所を固定した方が市民には分かりやすいのではないか。また、施業をやっているところで見学会を出来れば良い。

白旗山は木材生産の場としては考えていない？

【上田係長】これまでは考えてなかったが、今後は木材生産を考えてやっていく形になる。

【逢坂委員】そうなるとエリアを分けていくことが必要かと思う。ここは手を付けず自然をいかして市民に使ってもらう場所、ここは生産と更新を続けていく場所、市民に森林整備はこういう風にやっていくといった教育展示のようなものがだったり。

【逢坂委員】上位計画の「緑の基本計画」は、公園整備のイメージなので、緑の基本計画に引っ張られて森林整備がすすみにくくなるのではないかなと思うが、白旗山も。

【上田係長】緑の基本計画でも森林整備を進めることについて書いてあるので、問題ない。

【上田係長】市町村森林整備計画と森林基本方針で記載の方向性がかぶるところがあり、分かりづらいので一つにしたい。その上で市町村の森林整備計画に載せなければいけないものは載せた。それぞれの方針の中で分けても使えるような形に取りたいと思っている。3回目と4回目の有識者会議で全体に関する質問をさせて頂く際にも改めてこれで良いかという協議もさせて頂く。

森林整備計画も入る形で全体が基本方針という風にしつつ、これはこれとして法律に基づく計画なので必要に応じてここだけ改定する。分離も便宜的に出来るような形にしたい。背景とか現況は統一するような形にしたいと思っている。熊本市も同じような形を取っていて、うまくやっているようだ。

【逢坂委員】当該方針は幅広く、また、道行政との連携との記載もあることから、当該方針の形が固まる前に、道の関係機関に意見照会などの対応をお願いしたい。

【上田係長】次回の有識者会議に向けて、道への意見照会を行う方向で検討する。